

な るほど その13 本願寺

親鸞聖人影像

鏡の御影(かがみのごえい)

筆者は似絵の名手と称せられる藤原信実の子、専阿弥陀仏。鏡で見るように、聖人の個性まで生き生きと描き上げており、鎌倉期の肖像画の傑作とされています。



© Hongwanji



© Hongwanji

一文字茶碗

偶然に横一文字に貼り付いてできた様から「一文字茶碗」と呼ばれる呉器茶碗(ごきちゃん)です。織田信長より顕如上人(第11代)に和睦の際に送られたと伝えられています。



平成30年度 善教寺初参式

合計十名。4才以上だと、善教寺本堂へお参りしたこと、かすかに覚えていること、しょう。0才とか3才だと、細胞レベルの記憶として、ちゃんと刻まれていること、でしょう。大人になつて、どこかの寺の本堂へお参りした時、「ここ、なんだか懐かしい」と思ってもらえるだけでも、有り難い尊い良き縁です。

住職レター

初参式の様子



先日(五月二十七日)、善教寺本堂にて「初参式」(善教寺仏教婦人会主催)を勤めました。「初参式」とは、お子さまの誕生後、初めて仏さまの前で手を合わせ、お祝いする仏教行事です。

仏前にて、お子さまと共に仏さまに手を合わせ、生まれたことの意味を確かめます。親として生きる出発点であり、赤ちゃんによって与えられた尊い仏縁であります。



挨拶される仏教婦人会の下川会長と来賓の善教寺総代(石原総代・上田総代・下満総代)